

関係者ヒアリング結果概要【産業機械製造業】

- 1 日時
平成30年11月9日(金)13時00分～13時50分
- 2 対象者
一般社団法人日本ベアリング工業会
- 3 場所
経済産業省本館7階会議室
- 4 対応者
法務省, 経済産業省
- 5 内容

(1) 人手不足の現状について

ア ベアリング産業の概要について

日本国内の生産規模は平成29年度は約7,300億円となっており、業界内における会社規模の比率は、大企業が3割、中小企業が7割となっており、中小企業の割合が大きい業界である。

また、主な取引業種としては、自動車(6割)、一般機械(2割)、電気機械(1割)となっている。

ベアリングは種類が豊富であり、新幹線から洗濯機まで幅広く機械に組み込まれて用いられている。

ベアリング加工の過程においては様々な業務があるが、例えば、特に人手が不足しているのはベアリングの原型を作る旋盤加工である。

イ 従事者数の減少傾向について

近年、従事者が減少しており、生産技術の向上に取り組んでいるものの、人口減少や若年層の採用難により、特に中小企業においては人手不足がより厳しい状況にある。

生産ラインの稼働状況や業務内容によっては、勤務時間のシフト制により不規則な勤務体系になることもある。

ウ 人手不足の指標について

本年度、ベアリング工業会に所属する32社のうち26社に対して、人手不足の現状を調査したところ、約9割が人手不足であると回答した。

(2) 人手不足解消・生産性向上のための取組について

人手不足を補うための取組として、主婦層を含む女性の採用の強化やシニア、ベテラン人材の活用強化等を行っている。

生産性向上の取組としては、自動機やロボットの導入と併せて工程の見直しを行い自動化・省人化等に向けた取組を行っている。

(3) 今後の業界の発展性、見通しについて

国内市場に関しては、他の産業と同様に、大きな生産高上昇は想定できないが、自動車や各種機械などに使用されている基本的な部品であることから、更なる技術発展が進展していく分野であり、その重要性は高く、自動車のEV化等が象徴するように、更なる技術開発が進展していく分野である。